



地域の宇都宮学 戊辰戦争 -宇都宮城の戦い-

土方歳三が歩いた成願寺街道



(写真)成願寺街道からの瑞穂台小学校近影

瑞穂野中学区で瑞穂台小西側を南北に走る成願寺街道を新選組でも有名な土方歳三が 1868 年 5 月 11 日（慶応 4 年 4 月 19 日）早暁伝習隊第 1 大隊、回天隊、桑名藩兵約 1000 人とともに宇都宮城を目指した

土方歳三のそれまでの足取りと 宇都宮城攻城戦について

4 月

11 日 江戸城は新政府軍に無血開城

同日土方は島田魁ら 6 人の隊士とともに、下総市川宿の鴻之台に集結する 2000 の旧幕府軍に合流（メンバーは大鳥圭介、吉沢勇四郎らの旧幕臣、秋月登之助、垣沢勇記らの会津藩士、立見鑑三郎、松浦秀人らの桑名藩士など）

12 日 大林院で行なわれた評議の席で、土方は「機智勇略兼ね備」えた人物として参謀に選出。土方は先鋒軍参謀として出陣鋒軍 1000 余名とともに宇都宮に向けて出陣。会津藩士・秋月登之助を隊長とする伝習第一大隊が主軸。島田らの新選組も含む

16 日 宗道（現在の茨城県千代川村）に宿陣。島田率いる一隊が、絹川で結城藩兵を破る」

18 日 先鋒軍は東蓼沼の満福寺に宿陣。当初予定されていた日光東照宮行きを一時棚上げして宇都宮城攻略を決断。

19 日 出陣前土方は宿陣していた満福寺で間諜容疑でとらえた 3 名を斬殺。
司馬遼太郎の「燃えよ剣」によれば、満福寺を出た土方は砂田の孤塁にいた彦根藩兵を駆逐した後、一気に宇都宮城まで攻め入り、鹵獲した大砲を利用して下川原門を破り城内へ侵入。その日のうちに関東の七名城と言われた宇都宮城は土方を首班とする旧幕府軍の手に落ちた。

23 日 態勢を整えた大山巖、野津道貫（明治を代表とする軍人。日清、日露戦争を指揮）らが指揮する新政府軍によって宇都宮城は 2 度目の落城に至り、土方歳三は銃弾を足に受け負傷、会津田島での療養生活に入る。

土方歳三の足跡をたどる

4月18日

土方は新選組伝習隊第一大隊と共に東蓼沼の満福寺で本陣を張る



(写真)土方が本陣とした古刈刹満福寺の門柱



(写真)満福寺の御堂



(写真)土方も見たであろう大銀杏



(写真)満福寺の一角にある祠

19 日の早暁 満福寺の境内で土方は密偵の疑いのある三人を斬殺



(写真)南面した生垣近くにある三つの慰霊塔らしきもの

満福寺を出た土方は伝習隊を率いて一路宇都宮へ



(写真)満福寺から成願寺へ向かう街道

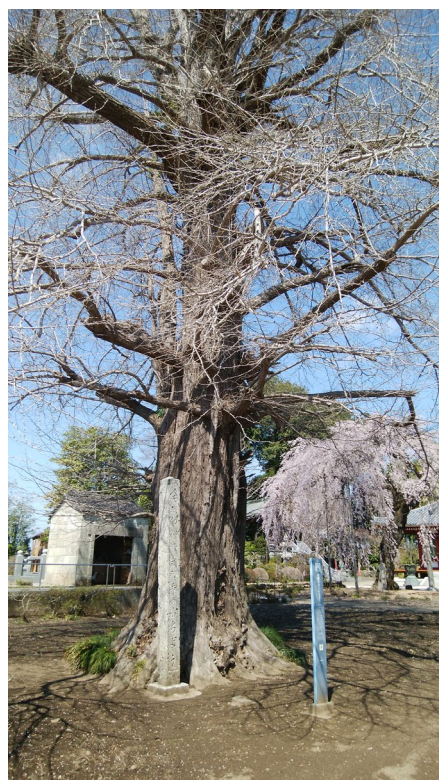


(写真)成願寺街道の名の由来となった瑞穂野南小学区にある成願寺
土方が休憩したともいわれる

成願寺街道は上桑島から宇都宮に続く間道として利用されていた



(写真)山門



(写真)大銀杏



(写真)一角にある御堂



(写真)朱塗りの伽藍

成願寺を出ると成願寺街道は瑞穂台小学区に入り宇都宮城へ



(写真)一路宇都宮城へ



(写真)成願寺街道から見た瑞穂台小学校



(写真)新4号線に続く成願寺街道



(写真)株式会社ミットヨ協を通る成願寺街道



(写真)宇都宮藩を中心とした新政府軍が
胸壁陣地を敷いた築瀬付近



(写真)田川にかかる築瀬橋
この橋を通して土方らは下川原門へ侵攻



(写真)宇都宮藩兵と土方指揮する旧幕府軍が激しい戦闘を繰り広げた下川原門付近の近影



(写真)宇都宮城付近を示す古地図



(写真)当時の宇都宮城の再現模型



(写真)宇都宮城南側に残る石垣跡



(写真)二の丸跡